



のっぽの手



「コロナ禍とNPO」
ネットワークセンター
「事業報告」

2021年7月発行

コロナ禍とNPO

増える女性の自殺

昨年、日本では女性の自殺が増えました。女性の自殺者は2019年の6,091人が2020年には7,025人となり、15.3%の増加となりました(厚生労働省「自殺の統計」)。男性はこの間、14,078人から14,052人であり、ほぼ増減はありません。著名な俳優の自殺が続いたことも一因といわれていますが、それだけではないでしょう。コロナ不況によって、サービス業を中心にもともと非正規雇用の多い女性が仕事を失い、困窮するケースが目立っています。ステイホームがDV被害や子育ての悩みを深刻化させているという指摘もあります。家族で過ごす時間が増えるとストレスが強まるという日本の現実。その矛盾に女性が追いつめられています。

自粛警察と差別行動

一方、昨年来、日本には「自粛警察」が跋扈しています。国家の威光を借りて、「正義」の名のもとにコロナ対策の自粛要請への違反者を攻撃するその振る舞いには、権威への服従と暴力への衝動が透けています。かつて関東大震災(1923年)の折には、朝鮮人が井戸に毒を投入するというデマが流れ、それを鵜呑みにした人々が各地で自警団を組織し、多くの人を虐殺するという事件がありました。戦前戦中の隣組は「非国民」の炙り出しと監視に勤めました。東日本大震災時の原発避難者への差別は、私たち福島県民には生々しすぎる記憶です(「放射能がうつる」!?)。

そしてこんどは、感染症対応の最前線で奮闘している看護師への差別が起きているといいます。残念ながらこの福島でも。

東京オリパラ、または、いつか来た道

感染力を増した変異株が現れ、ワクチン接種も思うように進まず、終息の気配がまったく見えていないなかで、東京オリンピック・パラリンピックが見切り発車されようとしています。誘致活動時の「お・も・て・な・し」アピールは措くにしても、時の首相の福島原発「アンダー・コントロール」発言には思わずのけぞったものでした。その後「震災復興」の冠までかぶせられることになった東京オリパラ。後継首相は「人類

が新型コロナウイルスに打ち勝った証」として東京大会を開催すると意気込み(1月)、「アンダー・コントロール」の証なのか、福島第一原発事故処理水(トリチウム水)の海洋放出を宣言しました(4月)。それにしても、パンデミックの最中に一大国際イベント？

立ち止まって冷静に考え、たとえこれまでの投資分を失うことになったとしても、時に撤退する勇気をもたなければ、いつか来た道を……と危惧するのは私だけでしょうか。

エッセンシャルワーカーとNPO

外出自粛、三密回避、ソーシャル・ディスタンス(対人距離)の確保などが要請されるこのコロナ禍にあっても、対人サービスや人との関係を基本とする仕事はなくなることはありません。日本でも、医療・介護、教育・保育、行政、食品・日用品、交通など、人々の日常生活に不可欠な仕事に携わる労働者をエッセンシャル・ワーカーと呼ぶことが定着してきました。NPOや市民活動団体の活動もまたその多くがエッセンシャルワークと呼ぶことができるでしょう。

コロナ禍は、女性の自殺に象徴されるように、失業や貧困、家ごもりのストレスによる家庭内暴力・児童虐待の増加など、本来NPOが対応すべき多くの問題を引き起こしています。社会的なニーズが高まり、目の前に手を差し伸べべき人がいるにもかかわらず、手足を縛られ動くことができない—そんなジレンマに引き裂かれているNPOも少なくないでしょう。

けれども、たとえどんな状況下でも、少しずつ、しかし機会を逃さないように、それぞれの立場で自分たちができることをやる—これはある意味で、NPOの活動の原点なのかもしれません。そうしたNPOのみなさまの少しでもお役に立てる中間支援組織でありたいと思っています。



(ふくしまNPOネットワークセンター

理事長 牧田実)

ふくしま地域活動団体サポートセンター 事業報告

新型コロナウイルスの影響を大きく受けた2020年度、事業実施についての長い検討を経て、スタートが大幅に遅れた。

福島県内中間支援センターやNPOへの聞き取りに伴うサポートは迷いながらとなったが、新たな手法や気づきを得ることができた。相談・問合せ件数も大幅に伸び、講座等にオンラインを活用するなど、事業に幅ができたと感じている。

★チャレンジインターンシップ

新型コロナウイルスの影響で、学校からの積極的な協力が得られない中ではあったが、14名の学生の参加があり、私たち事務局もオンラインを活用しての新たな試みにチャレンジをした。小規模ならではのあたたかな育成プログラムとなったと感じている。

★ふるさと・きずな維持・再生支援事業

東日本大震災からの復興を目的とした補助事業だが、昨年度も採択された22の事業が実施された。

単年度事業のため、なかなか継続的に展開が難しい面もあるが、未来への展開を期待したい。

★マッチング

NPOと企業が協働の形で事業を行うマッチング事業。

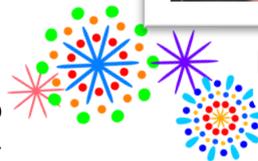
企業を対象とした交流会を実施するなど、NPOと企業との協働を理解いただく時間を設け、アフターフォローに時間をかけたことで、複数のマッチング事業が誕生し、継続も視野に入れることができるようになった。

★今後の取り組み

新型コロナウイルスの影響により、NPOの形も、地域の企業の状態も大きく変化した。アフターコロナを見据えた支援を心がけサポートしていきたいと考える。



【チャレンジインターンシップ
事業報告会での記念撮影】



(ふくしま地域活動団体サポートセンター

所長: 内山愛美)

福島市市民活動サポートセンター 事業報告

昨年度、新型コロナウイルスの影響で2度の休館、利用時間の短縮、利用人数の制限を経て、来館者16,305名、会議室の稼働率は前年比36%と利用が落ち込んだが、「新型コロナウイルス感染拡大で課題を抱える利用団体の力になれることはないか?」とヒアリングを行い、情報提供や利用者が安心して館内を利用できるよう細やかな消毒・清掃につとめた。また、この現状を踏まえ、これまでとは違った講座企画を行い、企業とのコラボ講座も積極的に実施している。

毎年実施している「ふくしま市民活動フェスティバル」の開催についても、何度も協議を重ねたが、検討の結果、参加者をしぼり、小規模開催とするなど工夫を重ね、オンラインシンポジウムを行うなど新たな試みにチャレンジした。

その他、人材育成を目的とした「NPO経営者ゼミ」「大和証券助成 人材育成プログラム」なども実施した。今後もネットワークや人材を育てることに力を入れていきたいと考えている。

★震災から10年の経過と新型コロナウイルス

東日本大震災から10年の時が経過し、福島に特化した支援プログラムが減少している。また、ニーズが多様化しているため、これまでの支援プログラムに合わない事業も見られる。そこで、地域のNPOが自立して活動していく組織基盤の強化やネットワーク強化に取り組んだ。

また、新型コロナウイルスの影響で、NPO活動が難しい様子も見られ、積極的なヒアリングを行い、内容に応じた伴走支援を行ってきた。

★これから・・・

オンラインの積極的な活用などが広まり、必ずしも対面でなくともできる活動も増えてきている。そこで、新たな中間支援センターとしてのサポートを考える必要があると感じている。



【講座と市民活動フェスティバルの様子】

(福島市市民活動サポートセンター 所長 内山愛美)

ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局 事業報告

本事務局では、福島県が実施する福島県からの県内外への避難者・県内への帰還者を支援する全国の支援団体を対象とした「ふるさとふくしま交流・相談支援事業補助金」として「県外避難者帰還・生活再建支援補助金」、「県内避難者・帰還者心の復興事業補助金」という2つの補助金の事務業務を行っています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、事務説明会や現地訪問調査を一部オンライン対応としながらも、事業実施の状況確認や、中間報告及び事業完了後の実績報告の2回会計報告書類の確認を行いました。4月からは、2021年度の申請書類の確認作業と審査資料の作成を行い、2021年度の本補助金の県内外採択団体への事務局業務が始まりました。

採択団体においては、6月の事業開始から感染症対策をはじめ、県境及び市区町村を跨ぐ事業や参集型の交流会・相談会等の開催方法の変更など対応に苦慮されているようでした。このような状況下であっても避難者・帰還者にとって、人との繋がりが持てる取り組みや支援は不可欠と感じており、支援団体が事業を継続出来るよう事務局の役割を果たしていきたいと思っています。

(ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局

所長 渡邊久美子)

(写真)ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局ウェブサイト)



本事業ウェブサイト(<https://www.ff-shien.jp>)では、事業に係るお知らせや採択団体の情報、避難者交流会情報などを随時掲載していますのでぜひご覧ください。

まちの駅 ふくしま情報ステーション 事業報告

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2度の臨時休館がありました。

当初の予定より休館期間が延長になったため、休館中の業務に関しては様々な工夫が必要でしたが、開館中にはできなかったふくしま情報ステーション内の配置換えなどを行ったことは大変良かったと感じています。来館者数に関しては、大変厳しい状況でしたが福島県民割引、Go To トラベル、ランチクーポンなどが行われたため、前年度比13.3%増の46,498人となりました。

今年4月にはふくしま情報ステーション内で、校外学習に協力を行った福島大学附属小学校と「児童作品展」を行いました。児童が一生懸命、丁寧にまとめた福島の観光や景観などについての作品を多くの方にご覧いただくことができたので、今後も地域の皆さんと一緒にできることを取り組んでいければと考えています。



まちの駅ネットワークふくしまは昨年、まちの駅マップを新たに作成しました。

今年度、生け花の里花見山ステーションさんの入会と福島ふるふるステーションさんの退会があり、現在ふくしま情報ステーションを含めて22ヶ所となっています。

新潟県見附市で開催予定だったまちの駅全国大会は、2021年度も昨年に引き続き、中止となるようです。まちの駅ネットワークふくしまとしても、コロナ禍で活動が思うようにできていませんが、今年は今後のために、オンラインなどを活用しいろいろな方にお話しをお聞きしながら、より学びの多い駅長会議を行っていき、ネットワークとしてできることに取り組んでいければと思っています。

コロナ禍もありイベントの開催なども例年より少ないことが予想されますが、しっかりと業務を行い、引き続きお客様にお越しいただく工夫をしたいと思えます。

(まちの駅 ふくしま情報ステーション

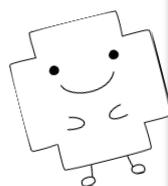
所長 野地理恵子)

まちなか交流施設 ふくふる 事業報告

まちなか交流施設ふくふる(2019(令和元)年5月開館)は、福島市本町(駅前通り・パセオ通り交差点)にある福島市の公共施設です。休憩や打ち合わせ、待ち合せなどいつでも自由に利用できるほか、館内の交流エリア・展示スペース・多目的ルームは、展示やイベント開催などのため、予約して専有使用することもできます。

市民の参加する運営協議会が設定した施設コンセプトは「まちをもっとおもしろく!」。私たちも「一人で過ごせる場所づくり」「いつものみんなで集う場所づくり」「新しいきっかけを生む場所づくり」をキーワードに日々の業務にあたっています。その一環として、2020(令和2)年度には館内に「よつかど本棚」を設置して本や雑誌を置き始めました。施設が面する交差点には、かつて福島経済・産業の中心地として栄えた歴史があります。時代が変わっても、多くの人や情報が行き交う場として親しまれて欲しい。「よつかど本棚」には、本を介してその役を果たせればとの願いが込められています。

2020(令和2)年4-5月および2021(同3)年1月、まちなか交流施設ふくふるは、新型コロナウイルス感染拡大防止の



【よつかど本棚のキャラクター
よつかどくん】



ために計39日の臨時休館措置をとりました。長期化するコロナ禍のもとでは、人と人がゆるくつながり、互いを気にかける関係がより一層必要とされていると感じます。今、この施設を拠点に、人と人との接点やつながりにどう関わっていくことができるか。施設の集客力の量的、質的向上をはかりながら、訪れる人が互いの存在を楽しみ、尊重しつつ自発的につながり合う「公共」の空間が生まれ出るよう、引き続き取り組みたいと考えています。

(まちなか交流施設ふくふる 所長 加藤麻子)

—福島県より受託、運営している施設—

●ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043 福島市中町8-2 福島県自治会館7F
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741
URL <https://f-saposen.jp>
E-mail saposen@f-npo.jp

—福島県より受託、運営している施設—

●ふるさとふくしま交流・相談支援事業 事務局

〒960-8041 福島市大町4-15 チェンバおおまち4F
TEL 024-529-7150 FAX 024-529-7153
URL <https://www.ff-shien.jp>
E-mail furufuku@ff-shien.jp

—福島市より受託、運営している施設—

●まちなか交流施設 ふくふる

〒960-8035 福島市本町2-6
TEL 024-524-3717 FAX 024-525-8156
URL <https://fukufuru-machinaka.jp>
E-mail f.machinaka@gmail.com

—福島市の指定管理者制度で運営している施設—

●福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町4-15 チェンバおおまち3F
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560
URL <https://www.f-ssc.jp>
E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp

—福島市より受託、運営している施設—

●まちの駅 ふくしま情報ステーション

〒960-8053 福島市三河南町1-20
コラッセふくしま1F
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027
URL <https://www.machi-fukushima.jp>
E-mail info@machi-fukushima.jp

編集後記

・真夏になる前からフル回転の職場の扇風機は、昨年ならず〜と働きづめですね (ヒデ)

・夏野菜の美味しい季節。たくさん食べて元気に暑さを乗り切りたいです (さくら)

・雨音が心地よいけれど、最近の雨はそんな呑気な事を言ってもらえません (か)

・新しい職場、悩みつつも周りの同志に助けられ頑張っている今日この頃です (やっちゃん)

・暑さ? 記憶力が全く無くなってきました。脳トレしないと... (うめちゃん)

《編集・発行》

認定特定非営利活動法人

ふくしまNPOネットワークセンター

〒960-8041

福島市大町4-15 チェンバおおまち4階

TEL 024-572-7930 FAX 024-572-7931

E-mail center@f-npo.jp URL <https://f-npo.jp>

